

|            |          |      |                      |
|------------|----------|------|----------------------|
| 第三者評価の受審実績 | 平成 24 年度 |      |                      |
| 取材の対象年度    | 平成 24 年度 | 評価手法 | 利用者調査とサービス項目を中心とした評価 |

## 【取材メモ】



### 取材の視点

- ・第三者評価受審の目的、経緯
- ・事業評価（自己評価）のプロセスで得られた気づき
- ・利用者調査、職員の自己評価及び評価機関による評価の結果から得られた気づき
- ・改善に向けた取り組みとその成果、など

## ■改善の取り組みとその成果②～運動機能向上プログラムの実施体制の充実と、その取り組みを通じた非常勤職員の意欲の向上

サービスの現場を支えているのはフルタイムあるいは短時間勤務の非常勤職員です。法人の人事制度において、非常勤から常勤職員への登用の道も用意されているとのこと。

当事業所では、入浴サービスがない分、時間を目いっぱい使って利用者に楽しんでもらう多彩なアクティビティのメニューを非常勤の介護職員が中心になって提供しています。職員は日々の支援を通じて利用者から元気と刺激を受け取り、モチベーションを高めているように見受けられます。今後、介護技術に加えて“エンターテイナー”としての素養が求められるデイサービスのスタッフとしてキャリアを積み上げていきたいという思いを抱く職員が、法人の貴重な人材としてその専門性を高め、成長を遂げていくための育成の道筋が示されることが期待されます。

評価機関からは、リハビリ的要素を取り入れた機能訓練の必要性について指摘を受けました。そのことを踏まえ、事業所では運動機能向上プログラムの向上を今年度の重点課題の一つに据え、非常勤職員を巻き込んだ取り組みを推進しています。

以前より、介護予防運動指導員の資格を持つ常勤職員を中心に、ストレッチと有酸素運動、トレーニング用のゴムバンドを使った体操を組み合わせた運動のメニュー（生き生き体操）を利用者に提供してきました。今年度は、その一つひとつの運動の方法と目的を非常勤職員にレクチャーし、フルタイムの非常勤職員全員がインストラクターとなって利用者に指導できる体制を整えました。



活動風景(生き生き体操)

そのことにより、利用者の体の動かし方に対する職員のアドバイスがより適切に行われるようになると同時に、インストラクターが増えたことで、より個別的な指導が可能となりました。また、非常勤職員が自信を深め、専門的な知識・技能の獲得に対する意欲をさらに高めることにつながった点が、事業所にとって大きな成果だったとセンター長は話しています。